

～出会いが人生の指針に・・・～

11月13日(水)、バイオリン製作者の田辺守夫さんと、トランペット奏者の班目加奈(まだらめかな)さんが、子どもたちと音楽ワークショップを行うため、来校くださいました。

田辺さんは、大田のご出身で、現在横浜でバイオリン工房を営んでいるそうです。13年前にも、当時の大田地区の小学校で同様の会を行ったそうですが、「高齢になり、今回は最後の機会になるかもしれない、大田小の子どもたちのために、洗足学園音楽大学の講師である班目さんと一緒に音楽ワークショップがしたい」とのありがたいお申し出があり、ぜひにとお願いし、実現したものです。

会は2部構成で、前半は、田辺さんによる楽器“バイオリン”“ピオラ”“チェロ”の紹介です。「もみの木、もみじの木、黒檀“を使って楽器をつくっています」「バイオリンを弾く人は、チェロを演奏しません。なぜかという、弾くときに見える弦の並びが反対だからです」と、子どもたちに自作の素敵な楽器を見せながら教えてくれます。「おじさんが、この楽器をつくりました」と話すと、みんなびっくり顔です。

数名の子どもが、実際に楽器を手に、“きらきらぼし”のはじめのメロディーを弾いてみる体験もありました。田辺さんが、弦を押さえる部分に印をつけてくださっており、左指で印のある弦を押さえながら、右手で持っている弓を押したり引いたりします。どの子もしっかり音が出せ、様子を見ている他の子どもたちや職員から、大きな拍手がわきます。

田辺さんは、最後に、あるメロディーをバイオリンで演奏してくださいました。それは、ご自身が65年前に田原小学校で聴いた「大田村民の歌」です。残念ながら、この曲を知っているものは誰もいませんでしたが、大田の歴史を垣間見る機会にもなりました。



後半は、国内外でも活躍されている班目さんによるト

ランペット演奏です。“ベル”“ピストン”“マウスピース”等のトランペットのパーツの名称や、唇の振動で音を出しているといったトランペットについての話を織り交ぜながら、「となりのトトロ」「トランペット吹きの日」「ふるさと」「浜辺の歌」の演奏を披露してくださいました。

子どもたちから、「高い音がきれいだと思います」「もっと楽器を弾いてみたいと思いました」等の感想が聞かれ、本物の楽器に触れ、その質感とともに、音色のすばらしさを体感し、実に有意義な会となりました。



田辺さんは、小学校5年生の時に、バイオリンとの出会いがあり、お父様が大工をしていたこともあって、「バイオリンを自分でつくってみたい」と思ったそうです。

班目さんも、小学生の頃のクラブ活動で、金管バンドとの出会いがあり、高校生になってからトランペットを始めたのだそうです。

お二人とも、小学生での楽器との出会いが、少なからずその後の人生を決定づけたといっても過言ではありません。今回のワークショップが、将来の指針となった子もいるかもしれません。

いつ、どのような出会いが、その後の人生に影響を与えるかはわかりませんが、だからこそ、このような幅広い体験・経験を積む場は重要で、“なりたい自分見つけ”の一助になればと考えています。

応援に来てください！～持久走大会～

11月22日の持久走大会の案内ポスターを、6年生が作成しました。地域の方にも自分たちのがんばりをご覧いただけるよう、大田庁舎やこども園等に掲示してもらうためにお願いにしました。

事前に、どのようなことを伝えるとよいかを考え、伝える練習もしたそうです。

